# シゴトON×OFF

## 両立支援へ学生を紹介

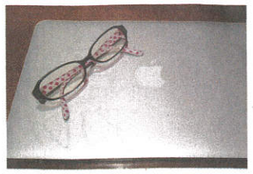
### 自由時在

堀江 敦子さん
（スリール社長）

月曜
7：00　起床
9：00　自宅から歩いて10分のところにある事務所へ徒歩で出勤
10：00　全スタッフとの会議
14：00　取引企業と打ち合わせ
18：00　子どもを預かってほしい新規家庭を訪問

女性らしいメモ帳を愛用している。「アイデアが浮かぶと、すぐ書き留めます」

22：00　帰宅。風呂に入る
24：00　就寝
火曜
12：00　元スタッフと昼食
20：00　今後の施策についてアドバイザーに相談
水曜
午前　オフ。ボディーマッサージで自分メンテナンス



パソコンを使う際は、目をいたわるための眼鏡をかける

14：00　取引企業と打ち合わせ
17：00　話し方を学ぶ個人レッスンへ
木曜
10：00　働く女性の勉強会のミーティングに参加。メンバーは同世代。おしゃべりも弾む
13：00　学生スタッフと打ち合わせ

金曜
16：00　昭和女子大学で講演
土曜
10：00　学生対象の研修の講師にテレビ局の取材を受ける
午後　テレビ局の取材を受ける
夜　姉の誕生会
日曜
終日　久しぶりに自宅でくつろぐ

学生たちにミルクの与え方を教える堀江さん（手前右）。「将来、仕事も育児も頑張れる学生を増やしたい」（東京都内で）＝青山謙太郎撮影

**ほりえ・あつこ**　1985年、東京生まれ。日本女子大卒業。大手IT企業で市場調査などを経験後、25歳で「スリール」起業。学生を「子育てインターン」として育児中の共働き家庭に送り込む事業を手がける。社名は仏語で「笑顔」の意味。学生時代から100人以上のベビーシッター経験を持つ。

「ミルクは、人肌の温度にして飲ませてあげてね」

「スリール」社長の堀江敦子さん(27)が、慣れた手つきでミルクを作ると、研修に参加した大学生らが懸命にメモを取る。「男の子も増えてきました。みんな熱心ですよ」と笑う。

子どもを預かってほしい共働き家庭に、保育の研修などを終えた学生が出向き、週1、2回子どもの面倒をみる――。「ワーク&ライフ・インターンシップ」と名付けたユニークな事業を手がけて約2年。若手社会起業家として注目される。

中学の頃から保育ボランティアなどを経験。大学卒業後はIT企業に就職した。仕事は面白かったが、働くママが両立に苦しむ姿を見て、働き方を見直そうと同期に呼びかけた。でも、共に行動する人はいなかった。

「これから育児を担う世代ですら、両立支援に関心が薄い」と危機感を持った。

「両立が当たり前の社会を作るには、学生から意識を変えていかないと」と考えて退職、起業した。

社員は自分と元保育士の2人だけ。学生スタッフらに支えられ、これまで約50家庭と約150人の学生を引き合わせてきた。共働き家庭は月3万円の「会費」で、月18時間子どもを預ける。学生は2人一組で子どもを世話しながら、人生の先輩である。パパ、ママの働き方、家庭の築き方を学ぶ。

学生の多くは仕事や結婚など、将来に漠然とした不安を抱えている。それが3か月間のインターン終了時には、「両立って大変だけど格好いい」と目を輝かせる。「その変化がこの仕事の面白さ」と自信を見せる。

預かりを希望する家庭は多いだけに、学生の確保が課題。大学などで講演するたび、「学校でも会社でも教えてもらえないリアルな生き方が、ここでは学べますよ」と呼びかける。

夢は、誰もが生きやすい社会の実現。「壮大な野望」と自分でも思う。でも、若い発想力と機動力で挑戦し続けていくつもりだ。

（板東玲子）

### 休日

女友達とのおしゃべりが何よりのストレス解消法だ。大学時代の友人9人とは特に仲が良く、月に1度は誕生会などを開いておしゃべりを楽しむ。

20代の女性らしく、恋愛や結婚の話題が多いが、会社の状況などを話し合うことも増えてきた。「人の体験や意見を聞くと刺激になって元気が出ます」

#### 結婚披露宴では恒例フラダンス

フラダンスを習う友人を講師役に、皆で定期的にフラダンスの練習もしている。仲間が結婚するたびに、衣装を身につけ、新婦も交えてフラダンスを踊るのが恒例だ。最近も昨年11月、仲間の一人の結婚披露宴で踊った＝写真、本人は後列右端＝。

友人のうち既婚者は3人に。「私も早く新婦としてフラダンスを踊りたいのですが……。婚活も頑張らないと」